

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 令和7年度第3回学校運営協議会の会議録

開催日時	令和8年2月5日(木) 午前10時30分～午後0時	開催場所	会議室(対面及びオンライン)
出席委員 (敬称略)	谷川正芳(大崎上島町長) 森下秀月(大崎上島町商工会事務局長) 田頭吉一(長崎大学事務局長・理事)(オンライン) 草原和博(広島大学大学院人間社会科学研究科教授) 水ノ上貴史(本校PTA会長) 吉村 薫(本校校長)(オンライン)		
会議の 概要	<p>○ 令和7年度学校経営計画に基づく下半期の取組についての説明 令和7年度自己評価シート(年度末評価)により、国際バカロレア、進路指導及び寮生活等の令和7年度下半期の取組について説明を行った。</p> <p>○ 委員からの質問・意見</p> <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IB授業アンケートは全生徒が対象か。アンケートにおける評価が上昇した要因についてはどのように分析しているのか。 → 回答: 全ての生徒を対象に、全ての教科について実施している。MYPよりもDPの方が評価は高い傾向にあり、DPの方がより主体的に授業に取り組むことができるということが要因になっていると考えている。 ・ CEF Rの到達目標については、B2から引き上げても良いようにも感じるが、どのように考えているのか。 → 回答: 目標の設定については検討もしているが、現在は、海外大学を目指す生徒については、大学が求める要件に到達できるよう、個別に目標を設定している。 ・ 生徒は、日常の中でどのように個性を伸ばすことができているのか。 → 回答: 本校には外部から多くの来客等があり、生徒それぞれが、日常的な学習の中で、自身の個性を生かしながら関わりを持つよう感じている。 ・ 第2期生の世界ランキング100位以内の大学への合格者数についてはどのように評価しているのか。 → 回答: 合格者数は第1期生と同程度となる見込みである。昨年度の経験を踏まえて教員の指導力が向上していることに加えて、戦略的な進路指導を実施できおり、選択と集中をしながら最適な進路選択ができていると考えている。 ・ 大崎上島といえば広島叡智学園というイメージも向上してきているように感じているが、大崎上島の中でも、特に高齢者等を対象として、学校について積極的な広報をしていただきたい。 → 回答: 現在は、フェリーの待合所への広報物の掲示といった取組をしているが、今後は更に積極的な広報活動を展開していきたい。 ・ 国際バカロレア機構による評価訪問において指摘されたという課題はどのようなものであったのか。 → 回答: 評価訪問には四つの視点があるが、その中で、学校の「文化」という視点において更に発展の余地があるという指摘があった。具体的には、学校が目指 		

している方向性について、学校と生徒だけではなく、保護者に対しても十分に共有していく必要があるという指摘であった。

- ・ アカデミック・ライティングスキルの向上が課題であるという記載があるが、普段どのような指導をし、どのような能力を伸ばそうとしているのか。
→ 回答：MYPにおいては、今年度は中学校第3学年を対象にアカデミック・ライティング講座を開設し、論文作成における基本的な事項について指導をした。DPにおいては体系的な学習はしていないが、課題論文の評価方法や着眼点について教員間で研修を実施した。
- ・ 教職員や指導主事等を対象に実施されている「広島叡智学園に学ぶ会」の参加者は、広島叡智学園の何を見て、何を学ぼうとしているのか。
→ 回答：特に探究的な学びとは何かということに注目されているように感じている。我々としては、広島叡智学園だからできているということではなく、自身の学校でどのように取り組むかということについてヒントを得てもらえるように意識しながら案内をしている。

意見

- ・ 大崎上島町立の義務教育学校では、島の自然や社会を生かして、この島だからこそできる「大崎上島学」という学びを進めている。広島叡智学園においても、この島の自然や社会から何を感じ学ぶかといった視点を大切にしてほしい。
- ・ 来年度も、今以上に地域をうまく利用し、協力をしていただきたい。
- ・ 今後社会が大きく変化していく中で、様々なことに興味関心を持てる生徒を育てていくためには、CAS活動が大切であり、大崎上島の環境も生かしながら取り組んでいただくことを期待したい。
- ・ 中学校入学者選抜の倍率が上昇するなど、今後更に多様な生徒が入学してくることを考えると、保護者との文化の共有はやはり大切であり、また、広島叡智学園で学べることはまだまだ多くあるはずで、地域とのつながりも大切にしていきたい。
- ・ 進路指導については、属人的なものにならないよう、ノウハウを蓄積しながら、引き続き戦略的に取り組んでいただきたい。
- ・ アカデミック・ライティングの指導をするためには、教員自身にその能力が求められるため、意図的かつ計画的に教員の能力を向上させていけるような仕組みを構築していただきたい。

以上、委員から貴重な御意見等をいただいた。

本校としては、委員からの御意見等を踏まえて来年度の学校運営を行っていく所存である。